



「地・食べ」生産者認定式で認定書と看板を受け取る秦地区生産者グループの皆さん

「地・食べ」生産者として認定

10生産者グループ67人と11団体

の種をまきました。今後も、キャベツとハクサイの種を、少しずつ時期をずらしながらまき、13人のメンバーで栽培を進めます。

◆ また7月26日、委員11人が出席し、そうじゃ「地・食べ」委員会を総合福祉センターで開きました。学校給食への納入状況や認定者などについて事務局が報告。これまでの取り組みから生産と出荷の体制をより高める必要があるとの話し合いが行われました。

◆ 農業公社と障がいがある人との学校給食用の野菜の栽培を、「地・食べ」委員会は、安定した生産・納入体制への足がかりの一つとして歓迎しています。

◆ 問い合わせ 農林課 農林係 (☎08271)



鬼ノ城地区「地・食べ」生産者組合が行うキャベツの種まき

◆ 学校給食へは「地・食べ」委員会の生産者部会を通じて、東西の市学校給食共同調理場へ納入。5月20日のタマネギ322kgを皮切りに、1学期中に3生産者グループから、タマネギ87kg、ジャガイモ382kg、キュウリ687kg、小松菜127kgを納入しました。生産者の作付けや栽培状況を管理する生産者部会は7月13日、秋・冬に納入する野菜の作付計画を確認。6生産者グループと農業公社きびの里が、キャベツやハクサイ、ダイコンなどの栽培を行う計画です。納入する野菜は、同一地域の認定生産者で構成する生産者グループで、農業公社から供給される種や苗をもとに栽培します。

◆ この生産者グループの一つ鬼ノ城地区「地・食べ」生産者組合(奥坂。代表・板谷豊さん)は8月7日、奥坂地区の畑で、11月初旬の収穫を目指し、キャベツ

6生産者グループと農業公社が取り組む 秋・冬に収穫の野菜栽培開始

キャベツやハクサイ、ダイコンなど

◆ 学校給食へ市内産の野菜の供給に取り組む「地・食べ」生産者を認定する認定式が7月26日、総合福祉センターで行われ、市長から一人ひとりに認定書が手渡されました。

◆ 認定された生産者は、そうじゃ「地・食べ」委員会の生産者部会と栽培契約を交わしたり、農協を通じ学校給食へ農産物を納入したりしている10グループ67人と11団体。「地・食べ」の生産の印として、ほ場に立てる看板も贈呈しました。

◆ ループから、タマネギ87kg、ジャガイモ382kg、キュウリ687kg、小松菜127kgを納入しました。生産者の作付けや栽培状況を管理する生産者部会は7月13日、秋・冬に納入する野菜の作付計画を確認。6生産者グループと農業公社きびの里が、キャベツやハクサイ、ダイコンなどの栽培を行う計画です。納入する野菜は、同一地域の認定生産者で構成する生産者グループで、農業公社から供給される種や苗をもとに栽培します。



「地・食べ」生産者として認定された人による生産者グループが野菜を栽培する畑には、学校給食用のものだとPRする「地・食べ」の看板が立つ



社会福祉公開講座 総社大会 ～中四国大会～

9月3日(土) 9:30~12:10 市民会館

9:30~11:30

講演 「誰もが、安心して働き・暮らせる社会を目指して」

講師 内閣府政策統括官 村木厚子さん

11:30~12:10

対談 「これからの総社市障害者の1,000人雇用に向けて」

内閣府政策統括官 村木厚子さん

◆ 総社市長 片岡聡一さん

◆ 山陽新聞社会事業団専務理事 阪本文雄さん

※市内の障がい福祉団体が、お菓子や花の苗、野菜などの販売を8月31日から始め9月4日まで天満屋ハッピータウンリブ総社店で行います

問い合わせ 福祉課障がい福祉係 (☎92-8269)